

令和5年度(2023年度) 学校評価表					学校番号	28	学校名	上田千曲高等学校	
学校重点目標		①オンリーワンの存在をめざし、生徒満足度が高く活力のある学校をつくる。 ②総合的な専門高校として、連携や魅力的な学びを体系的に行い、進路実現につなげる。 ③ICT機器等を利用して、授業力、教師力、学校力を高め本校教育について広く発信する。 ④地域の教育力・人財を活用して教育の質を高めるとともに地域と連携し活性化に貢献する。 ⑤生徒の人権を尊重し保護者と連携して、いじめや体罰の無い安全・安心な学校をつくる。							
評価対象	評価項目	評価の観点	成果と課題	評価	改善策・向上策	外部評価			
学習指導	専門教育の充実	生徒の実態に即し、創意工夫のある授業を展開することができたか。	各専門科の特性を活かしながら、生徒の意欲を導き出すことを心がけ工夫した授業を行うことができた。	A	各専門科での創意工夫を意見交換し、共有できる場を設定したい。	A			
	資格取得の充実	生徒が資格取得に興味関心を示し、生徒一人ひとりが積極的に取り組むことができるように指導することができたか。	各種資格取得・検定などを年度当初に明示し、資格取得に積極的にチャレンジできるように努力した。	A	各種資格の取得意義を広く生徒に伝えることが重要である。	B			
		時間外の講習会や長期休業中の補習を充実させ、生徒にとって満足いく成果が得られたか。	朝や放課後の補習等を実施し、生徒の資格取得について最大限のサポートをすることができた。	A	補習の際使用する機材の老朽化や材料費等に再考の余地がある。	A			
	学習意欲の向上	生徒の学習意欲を向上させるため、校外実習や外部講師による授業など、多角的に理解が深まるように工夫し、実践することができたか。	校外実習や外部講師の活用、またICTの活用機会を増やすことにより、生徒の理解状況に合わせ授業を実践することができた。	A	校外実習費用、外部講師の確保など、更なる工夫が必要である。	A			
		生徒にとって分かりやすい授業を実践することができたか。また、理解できない生徒に対して個別の支援がしっかりとできたか。	ICTが導入され、生徒個々に機器を持たせることにより、新しい授業スタイルを展開できるようになった。ICT利用促進委員会との連携がさらに必要である。	B	個別の支援にはICT機器の充実が最優先事項であるが、ICT利用促進委員会と連携を密にし、向上策を講じる必要がある。	B			
進路指導	進路実現	生徒の適性や学力を的確に把握し、進路指導に役立てられたか。	4月末に進路希望調査を実施し、就職希望者には6月より個別面談を行い、生徒の希望や適性を把握して職業選択に反映させた。	A	生徒の進路に対する意識を高めるためのキャリア教育を充実させ、将来のビジョンに向かって進路選択ができるように、引き続き指導していく。	A			
		キャリア教育を実践し、進路選択の可能性を広げることができたか。	夏季および春季インターンシップ、各種企業説明会、進路相談会やオープンキャンパス、進学説明会への参加を積極的に呼びかけた。夏季ならびに春季インターンシップでは2年生93名、1年生45名の生徒が参加した。	A	インターンシップについては、本年度も1、2年生を対象とし年2回(7月、3月)実施することができ、体験の機会を増やすことができた。来年度は2年生全員を対象として校内企業説明会を実施し、生徒の仕事への興味関心を高めていく。	A			
		保護者との連携を密にして指導を行うことができたか。	PTA総会及び各学年PTAIにおいて、保護者への進路説明会を実施し、昨年度の進路動向を説明するとともに、進路活動への理解と協力を求めた。	A	総会や学年PTAでは十分な時間を取り、進路に関するガイダンスを実施できた。来年度も進路係と担任との連携を深め、保護者への情報提供をさらに充実させていく。	A			
		進路実現のために基礎学力の向上に関連部署と連携して推進できたか。	地元大学と連携し、学校説明会(受験対策)を開催。また、必要な模試などの情報提供と受験案内を行った。医療看護系希望者に対しては過去問題を利用した受験対策を行った。また関係部署で出題教科の補習や作文指導を粘り強く実施した結果、公立大学に7名合格することができた。	B	進学では総合型や学校推薦型選抜に対応し、基礎学力の向上と作文対策に努め、一般受験、大学入学共通テスト利用については、早期に計画的な学習指導をおこない、受験に備えることが必要である。以上、進路実現に向けて引き続き指導をおこなう。	A			
生徒指導	基本的生活習慣	頭髮などの身だしなみから生活習慣を見直し、社会で通用する基本的な生活習慣とマナーの確立を図り、地域から信頼される千曲高生を目指すことができたか。	各定期考査の折指導を継続してきた。頭髮の染色・ピアス等の装飾品に対する指導に従わない生徒が出てきている。粘り強い指導を継続しているが、各専門科・各クラスで大変苦慮した。	B	長期休業明けなどは学科と連携し、指導の徹底をはかることを継続していきたい。	B			
		クラス・学年・学科の枠を超え、協力し合って指導することができたか。	学年・科の係がパイプ役となり、係会・学年会で情報共有し指導している。	A	学年所属係が中心となって、学年会での情報発信を積極的に行っていく。	B			
		良好な学習環境を守る意識を、生徒に考えさせることができたか。	生徒会と連携し千曲祭・あいさつ運動・通学安全指導を行うことができた。校内巡視や週番活動を継続しながら学習環境を整える意識を高めていく。	A	各係と連携を取りながら、被害を抑えていきたい。また啓発活動も引き続き行っていく。	B			
	安全安心な学校	校内情報の共有化により、職員一致による安全な学校作りをおこなう。また、交通事故防止に積極的に取り組めたか。	校内LANにより、自転車通学者・アルバイト許可者・自動車免許許可者が閲覧できるようにしている。各担任への注意喚起はその都度間髪をいれずに共有している。また緊急性、必要性のある場合には係がSHR時に放送を行った。	A	校内LANの活用を今後も積極的に続け、情報共有を促進させる。必要に応じて放送も入れていく。	B			
生徒会活動	自主活動への支援	人権を尊重した取り組みを実践することができたか。	生徒総会、文化祭、クラスマッチなどの生徒会行事の計画、準備、実施について、生徒の自主的な活動を支援した。生徒は一人一人が役割を持ち、他者を尊重し取り組むことができた。	A	生徒総会、委員会活動では生徒が責任感を持った誠実な態度で活動することができた。文化祭、クラスマッチなどの行事においては役割分担を自覚し他の生徒と協力しお互いを尊重しあって楽しい行事をつくることができた。継続したい。	B			
		生徒会活動の中に地域連携をひとつの柱として捉え、生徒の自主性を育めたか。	例年実施している自治会役員と合同のあいさつ運動を実施した。文化祭で子ども服回収、子ども対象のスタンプラリーを行い、生徒が自主的に行動する機会を作ることができた。	A	あいさつ運動、募金活動、文化祭での子供服回収、自治会や地元企業のイベントなど、生徒会、班、同好会が参加して行う活動ができた。地域で活躍する機会を得て生徒の自主性を育む一助となった。今後も継続したい。	A			
開かれた学校作り	公開授業等	公開授業や行事をとおして、本校の活動を保護者に広く伝えることができたか。	授業公開において保護者の参加が少なかった。特に懇談会の期間中は参加がしにくいと考えられる。中学生を対象とした公開授業で本校の保護者の参加がみられた。	B	授業だけではなく、行事についても保護者に公開して関心を高めることができるか検討する。	B			
	広報活動の充実	本校の教育活動について広く理解を得るために、学校案内・Webページを充実させられたか。積極的に地域のイベントに参加できたか。報道機関へ情報提供を行い、各種メディアを利用して活動情報の発信を図ることができたか。	情報処理委員会によって本校Webサイトをリニューアルした。多様な端末での閲覧がしやすくなり、閲覧者が必要な情報を入手しやすくなった。授業や実習、班活動等で地域との活動や、各種イベント参加により、本校の良さを知ってもらうことができた。本校の教育活動について保護者に充分伝の工夫が必要である。	B	Webサイトに保護者へ向けたコンテンツの発信を検討する必要がある。引き続き、報道機関への情報提供を積極的におこなってゆくことにより、本校の良さを広く知ってもらう。	B			
	PTA活動	諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生活が有意義になるよう連絡を密にできたか。家庭への連絡を密にするため、メール連絡網システムの登録数増を図り、折に触れ情報発信を心がけることができたか。	諸々の課題を保護者・職員で共有すると共に、高校生活が有意義になるよう情報を共有し連絡を密にした。メール連絡網システム(きずなネット)の登録数増を図り、情報発信を心がけ、利用登録団体数も増加し活用できた。	B	PTA役員と連絡を密にししながら、PTA組織をより実効性のあるものにしながら、業務の精選、適正化を図り、円滑に運営できる体制を検討していく。	B			